

# ito - 思考の集積 -

建築ができる「まえ」とできた「あと」。

その点と点の間に線を引く行為こそが“設計”であり、そこに設計者の思考や個性が表れる。

「まえ」と「あと」を繋ぐ設計者の意図 — “糸”をたどる展示空間を提案する。



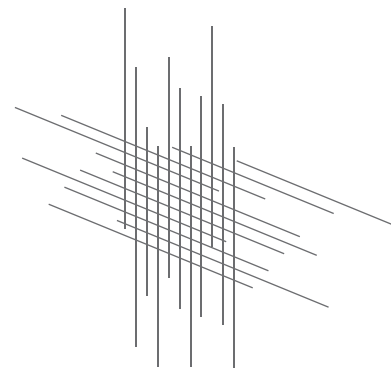
## .Concept

「まえ」と「あと」をつなぐ“糸”



設計者の意図や個性が糸のかたちとして表出する

抽象 から 具体 へ  
糸 から 布 へ

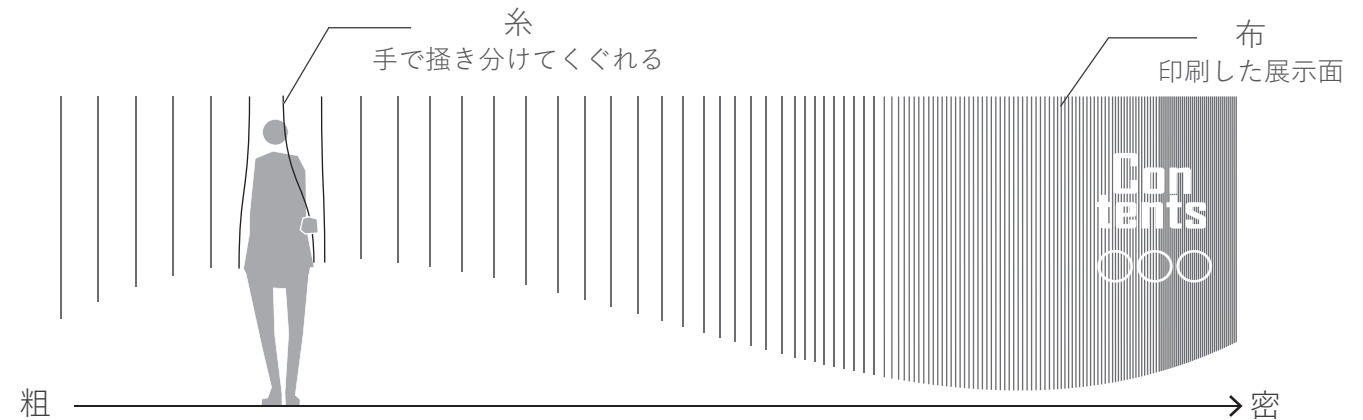


設計者はこれらの何本もの糸を紡ぎ、  
一枚の「布」=「建築」を生み出していく

## .Diagram

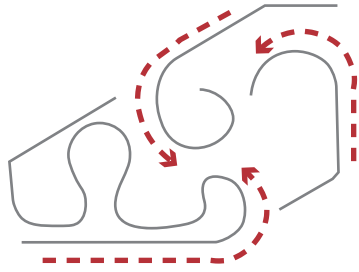
糸 から 布 へ

糸の粗密によって糸から布へシームレスに変化させ、  
展示空間と動線を一体的にデザインする



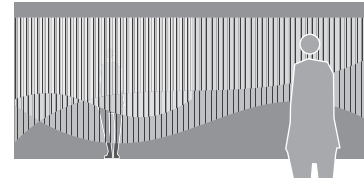
空間構成

■引き込む



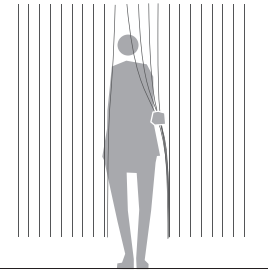
外皮のヴェールを内側へ連続させ  
周囲を歩く人を引き込む。

■透ける・重なる

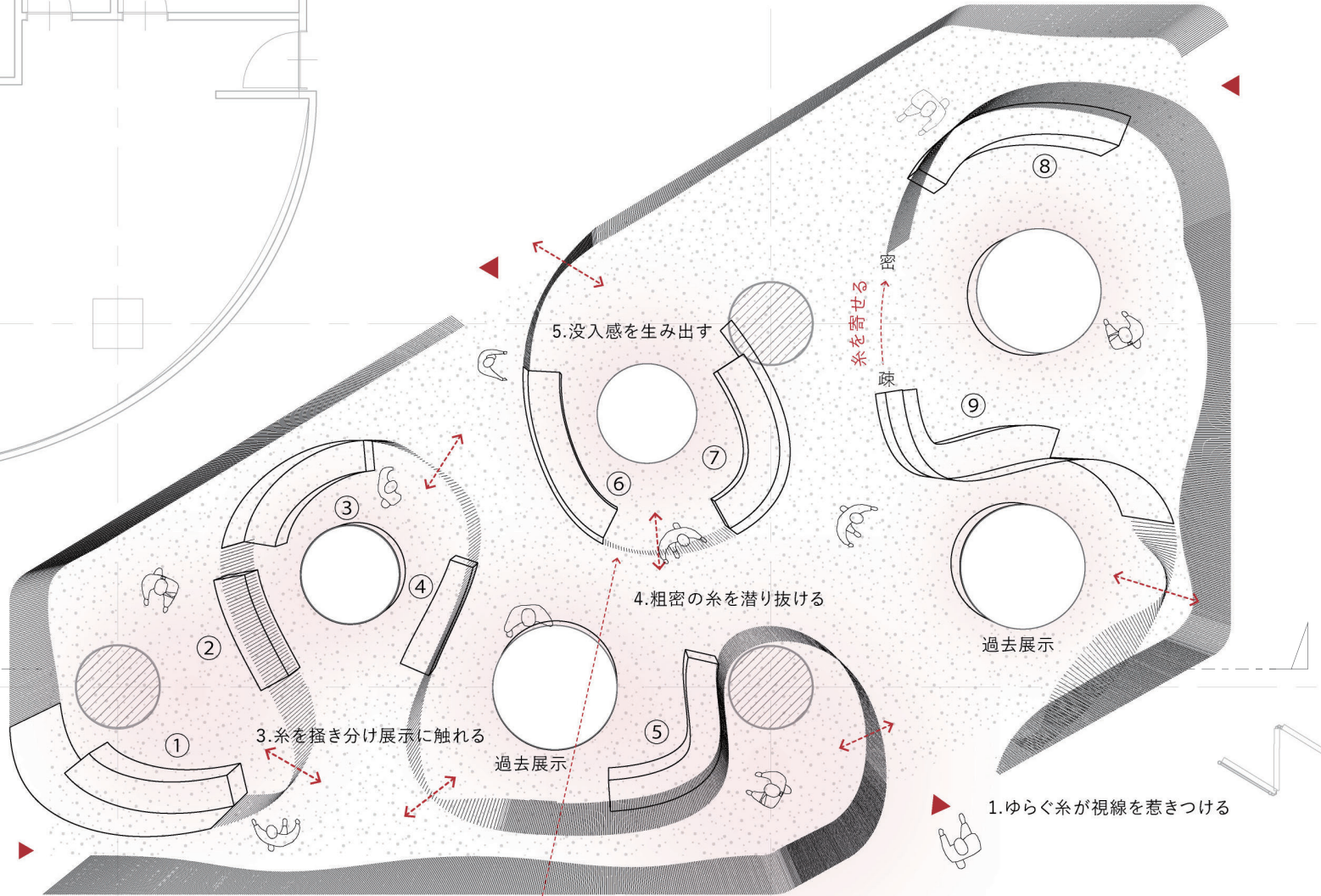


粗密や長さの異なる糸は  
重なり合うことで様々な表情を  
映し出す。

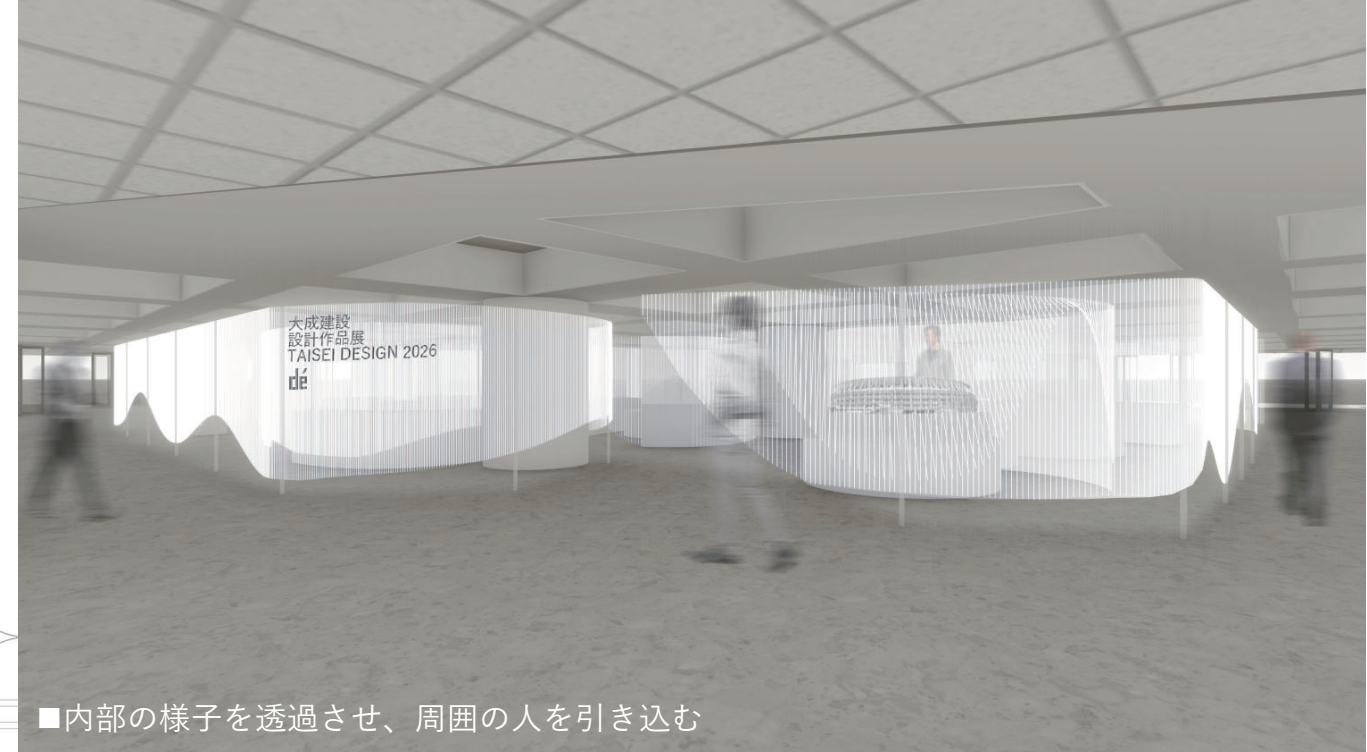
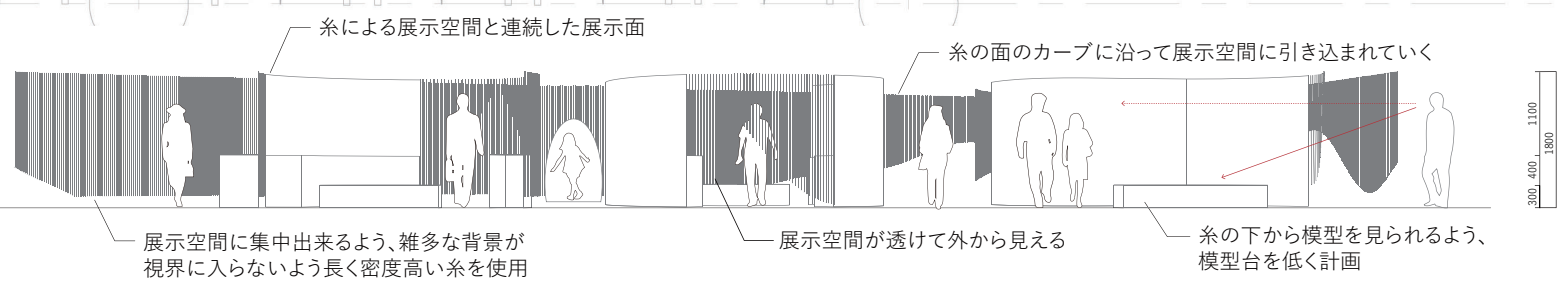
■触れる・掻き分ける



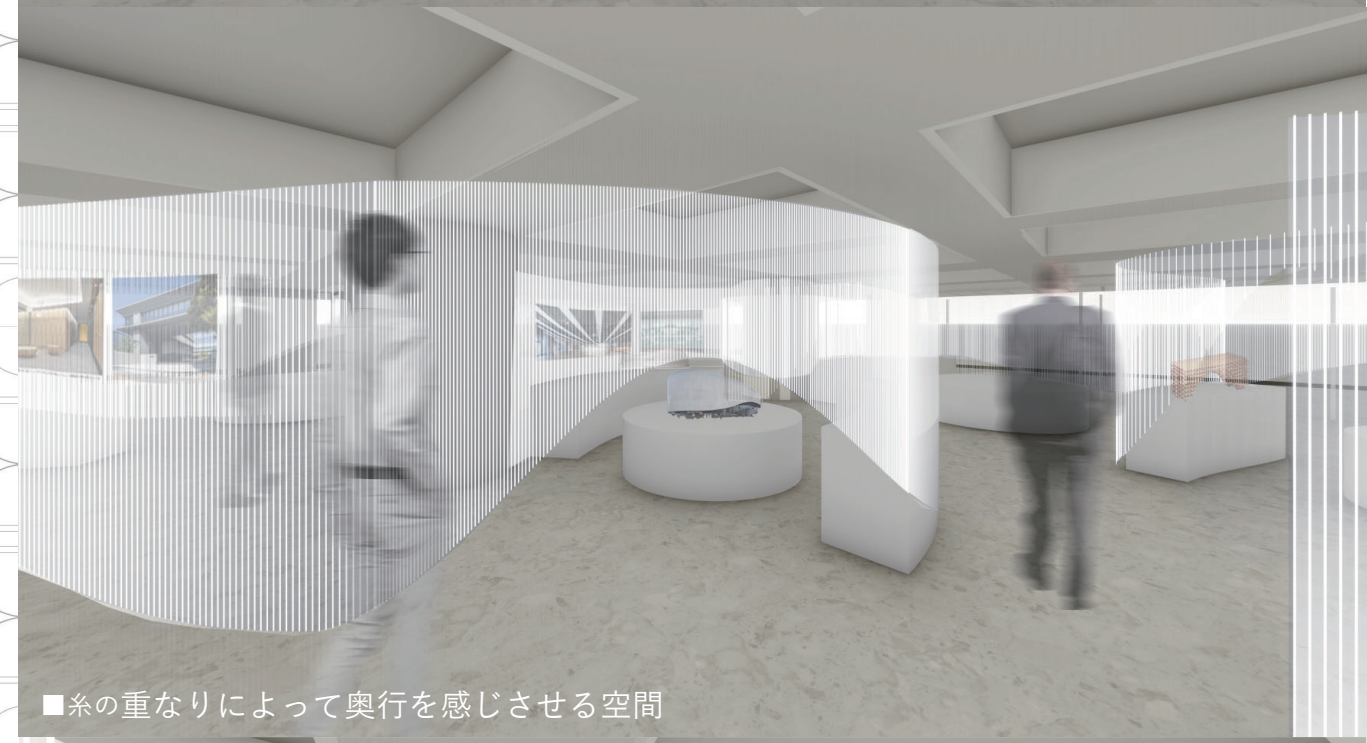
糸でつくられた軽やかな境界に  
鑑賞者自らの手で触れ、領域を  
行き来する。



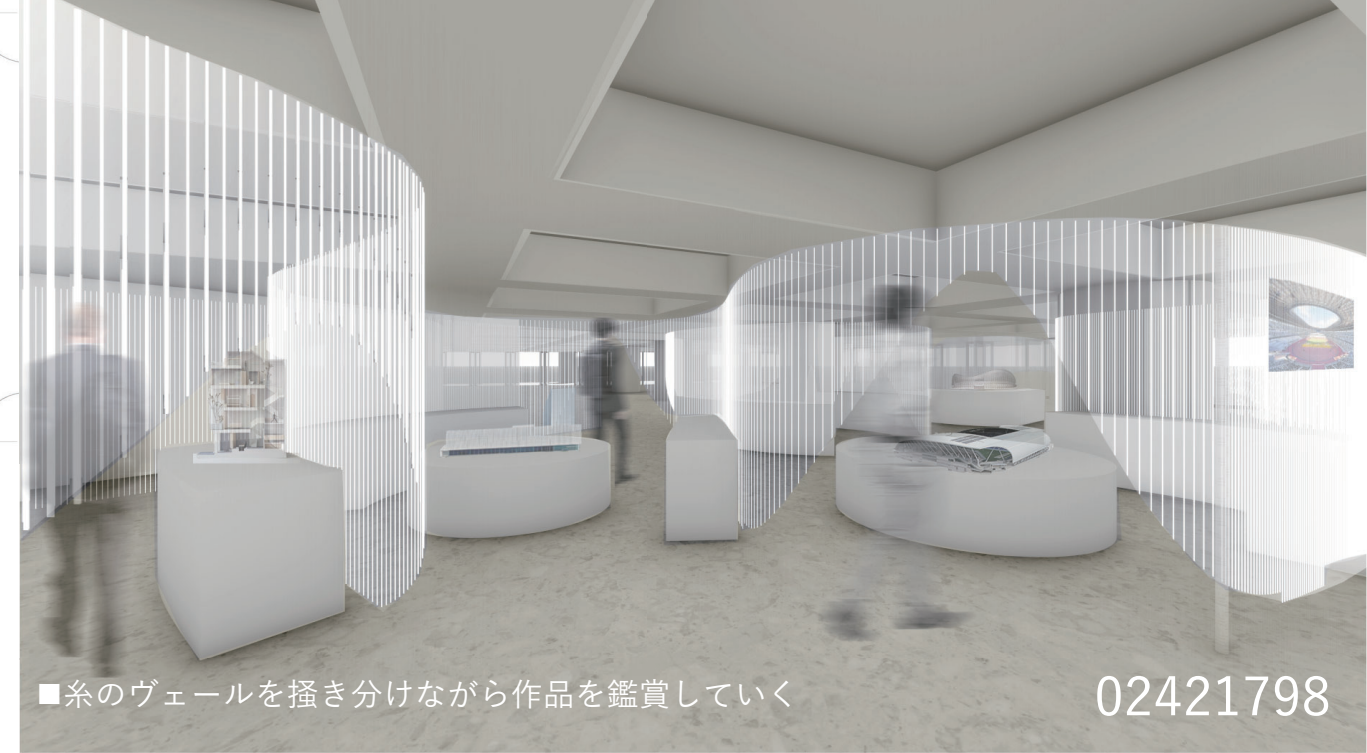
平面図 S = 1:100(A3)



■内部の様子を透過させ、周囲の人を引き込む



■糸の重なりによって奥行を感じさせる空間



■糸のヴェールを掻き分けながら作品を鑑賞していく